

# 「おがわ学の構築・実践」—学校と地域の未来を創ろう！プロジェクト—

## 現状と課題

人口減少・・・小川町人口H8:約3万8千人→R2:約2万9千人  
 高校統廃合の危機・・・生徒数H8:約960人→R2:約590人

- 地域の伝統校の存続は、地域の活性化とも深く関連
- 学校と地域が共通認識を持って、教育に取り組む必要性

## 取組

学校と地域が協働し、各教科の中で地域資源を活用した課題解決学習を導入  
**「おがわ学」→【生徒：資質・能力の向上】+【地域：魅力化】**

地域への愛着・誇りを育む教育

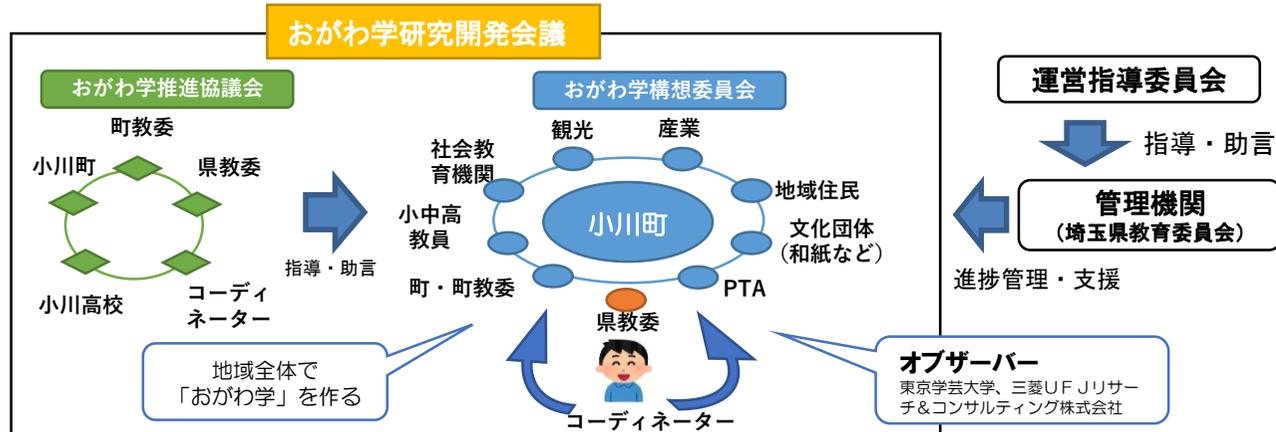
地域の文化・伝統への再注目・地域の課題への問題意識

未来を切り開く力の育成

探究的な学びを通じた課題解決力の育成

## 研究開発体制

- おがわ学推進協議会（年4回実施）  
小川町・町教委・県教委・小川高校・コーディネーター 計5名
- おがわ学構想委員会（年4回実施）  
小川町・町教委・小中高教員・PTA・地域住民・社会教育機関・文化団体・産業界・観光関係・県教委（教育事務所含む）・コーディネーター 計37名
- おがわ学担当者会議（年5回実施）  
構想委員会の作業部会 計25名
- おがわ学運営指導委員会（年3回実施）  
学校教育に専門的知識を有する者・学識経験者・関係行政機関の職員等 計5名



## 令和3年度の目標

令和元年度「構想」 → 令和2年度「構築」 → 令和3年度「実践」 → 令和4年以降「波及」

- 1 小学校、中学校、高等学校それぞれの「おがわ学テキスト」を活用した授業実践
- 2 おがわ学研究開発発表会「おがわ学フォーラム」の開催
- 3 「おがわ学人材バンク」の創設
- 4 持続可能な運営体制の構築

## 取組状況

- 1 小中高で「おがわ学テキスト」を活用した授業の実践、研究会の実施  
全10回実施  
授業実践を踏まえて、小中高の指導計画を見直した
- 2 「おがわ学フォーラム」の開催（令和3年11月20日、27日）  
県内を中心に約1400人が参加した。  
小中高の公開授業、研究開発発表会、地域住民対象のおがわ学体験授業を実施
- 3 「おがわ学人材バンク」の創設  
地域と学校とが双方向的に教育資源を共有できる仕組みを構築した
- 4 会議体や教育課程の見直しなど持続可能な運営体制の構築を図った

## 成果と課題

### 成果

- 「おがわ学テキスト」を活用した授業を実践し、校種の枠を超えて研究会を実施した。
- 「おがわ学フォーラム」を開催し、「おがわ学」を周知することができた。
- 「おがわ学人材バンク」の創設

### 課題

- 各教科・科目における「おがわ学の構築・実践」の日常化
- 「おがわ学」と「探究的な学習」及び「GIGAスクール構想」を関連付け、ICTを活用しながら、①課題の設定②情報の収集③整理・分析④まとめ・表現の「探究のプロセス」をより強調した学習の実施
- 「おがわ学の構築・実践」を通してカリキュラム・マネジメントの実施